



# ROTARY CLUB OF OSAKA JONAN

## WEEKLY BULLETIN

創 立 1969. 5. 30 会 長 井 上 裕 貴  
幹 事 中 谷 徹 雄 会 報 委 員 長 大 原 文

RI 2660地区  
大阪城南ロータリークラブ

NO. 2217

2015-2-6

事務所 〒542-0012 大阪市中央区  
谷町9丁目1番22号NK谷町ビル407号  
TEL(06)6796-9898 FAX(06)6796-9899  
http://www.osaka-johnan-rc.org/  
E-mail:johnan25@crocus.ocn.ne.jp  
例会場 シェラトン都ホテル大阪 上本町6-1-55  
TEL (06)6773-1111  
例会日 金曜日 12:30

### LIGHT UP ROTARY ロータリーに輝きを

2014-2015年度国際ロータリー会長 ゲイリー C.K. ホアン

#### 本 日 の 例 会 2月6日(第1例会)

- 表彰・ホームクラブ連続皆出席  
岡本(10) 境(20) 山口(630)  
井上(20) 中谷(徹)(50) 村上(泰)(30)  
西澤(10) 村上(武)(30) 岩永(10)  
三宅(80) 中尾(10) 浅井(20)

各会員

- お祝・誕生日  
今岡 岩永 永井 奥田 佐々木  
鈴木 米田

各会員

- 結婚記念日  
三木 西村 奥田 佐伯 宇津井

各会員

- 卓話 「関西における訪日外国人の動向」  
米田昭正国際奉仕委員  
(岩永建保国際奉仕委員長担当)

- 理事会 11:30 ~ 12:10  
シェラトン都ホテル大阪 3階  
フラワーシャワーエリア

- クラブフォーラム(国際奉仕)  
13:40 ~ 15:30  
シェラトン都ホテル大阪 3階 春日の間

出席会員 39名 (内免除会員 11名)

会員総数 50名 (同上 15名)

ゲスト 1名

ビジター 3名

計 43名

ホームクラブ出席率 88.37%

1月16日(第3例会) 補正出席率 100% (MU 3名)

#### ● ゲスト&ビジター (敬称略)

樋口玄正 (卓話者)

奥村安正 (大阪南)

佐々木恭一 (大阪東)

花村敏信 (三鐘電器(株)社員)

#### ◆ 会 長 挨 拶 ◆

先週の情報集会和酒味の会の合同会合は寒い時期で少し集まりが悪かったです。情報集会はロータリアンがくつろいでロータリーのことを話し合う機会であり、ロータリアン同士親睦を深めるためにも効果的な会合です。お酒の飲めない方も食事を楽しみながら大いに語り合い、ロータリーのよさを満喫してください。

#### ◆ 幹 事 報 告 ◆

地区より2014~15年度大和川・石川クリーン作戦のご案内が来ています。日時は3月1日(日)午前中です。皆さん、ふるってご参加ください。中尾社会奉仕委員長に回付します。

#### 次 週 の お 知 ら せ 2月13日(第2例会)

- 卓話 「日本と米国の司法制度」  
日本の企業は何故、米国で多額な紛争にまき込まれるのか。司法制度の違いからくるのか?

中本和洋会員

- 次年度理事会 11:30 ~ 12:10  
シェラトン都ホテル大阪 3階 ホワイエ

- 食膳 〈フランス 魚料理〉

#### 次々週のお知らせ 2月20日(第3例会)

- 卓話 「夢を叶える 3大資源」  
ヒューマン・リソース研究所長 鈴木民二氏  
(奥田秀行会員担当)

#### 先 週 の 記 録 1月30日(第5例会)

- 出席報告

#### 卓 話

1月30日 <第5例会>

「能面と秀吉」



日本能面美術協会 会長

樋口玄正氏

女面を中心に能面の基本的な事柄と、豊臣秀吉は能が好きで、能楽と深いかわりがあり、そのお陰で現在の能楽があるという、二つのお話しをしました。

先ず能面の基本的な事柄についてですが、女性の面(おもて)の内、若い女性の代

2月は世界理解月間です!!

## 〈4つのテスト〉言行はこれに照らしてから

真実かどうか

みんなに公平か

好意と友情を深めるか

みんなのためになるかどうか

表として、宝生流の流儀の面「節木増」(玄正作、写し)を見ていただきました。小面、若女、孫次郎と同様に、眼の瞳が四角くくり抜かれていること、口元がアルカイックスマイルになっていることが大きな特徴です。眼の瞳は歳とともに丸味が付いてくるわけですが、丸くなるほどきつい眼付きになります。四角い瞳がなぜ柔らかく見えて、丸い瞳がなぜきつく見えるのか、これは能面の七不思議の一つといえます。

能面はよく無表情な、という意味合いで「能面のよ様な顔」とたとえられますが、実は微妙な表情の変化があり、うつぶせに傾ける(くもる)と泣いているような、睨んでいるような表情になり、逆にあお向ける(てる)と表情が和らぎ、微笑んでいるようになります。これを中間表情と一般に呼ばれています。また能面は左右非対称で、表情がわずかに違っています。向かって左が「陰」で、向かって右が「陽」です。人間が制作するものですから、左右対称にできないこともあります。逆に左右対称にしてしまうと、能面の面白さが無くなってしまいます。また多くの能が、心に深い思いをもって左の面を見せて登場し、能舞台上で舞を舞い、心が晴れて右の面を観客に見せて去って行く、という演技に合わせて、陰陽を付けるということです。

次に「深井」(中年の女性の面)と「老女」(小野小町の百歳の顔)の面で、眼孔の落ち窪んでいく様や、口元がどんどん下がってゆく様を見ていただきました。

更に「翁」「黒色尉(三番叟)」「猩々」「獅子口」を見ていただき、翁の立派な鼻が、共産党の志位和夫さんの鼻に似ていること。「深井」の全体的な形(フォルム)がNHK大河ドラマの軍師官兵衛の妻役、中谷美紀さんに似ていること。「深井」のタテの笑窪が昨年科学ノーベル賞を受賞した天野浩教授にもあることなど、実在の人物を捉えて説明し、能面が人間の骨相や表情を無視して制作されているのではないことを、お話しました。

個人的な感想ですが、阪神球団の能見投手(球界の玉三郎)は、眼・鼻・口、どれを取っても素晴らしく、最も能面に近い顔である、とも述べておきました。

次に秀吉と能楽との関係について。秀吉は関白になったころから能に関心があり、大和猿楽の金春流と金剛流を最真にしていたこと、能の座(能の職業集団)に知行や扶持を与えて擁護したこと、また能面のコレクターでもあり、石川龍右衛門(室町前期の女面の上手)の「雪雪花の小面」を何処からか入手し愛玩していたこと、醍醐寺の僧「角の坊」に観世と金春の能面3つを貸し与え、写させたこと、そして5日で仕上げた角の坊に「天下一」の称号を与えたこと、等をお話しました。

更に、秀吉は座付制度(大和猿楽を中心にした座の整理統合)を定めましたが、そのことが江戸時代の能の「式楽(公式行事の演芸)」につながっていった、ということです。このように秀吉がいたお陰で、江戸時代に

は能楽の隆盛期を迎えることになり、現在の重要な伝統文化の一つとして、継承されてきたということです。

秀吉愛玩の小面3面のその後。「花の小面」は拝領した金剛家が昭和の時代に23世で廃業し、能衣装や能面は全て、三井家がそれを買取り収蔵し、現在は三井記念美術館が保有しています。「月の小面」は徳川家康がもらったのですが、江戸城の火災の時に焼失してしまいました。金春炭蓮が拝領した「雪の小面」は行方不明となり、江戸時代の記録(書上げ)には何も残っていませんでした。ところが、昭和の時代になって京都の野村金剛家(宗家を継承)が「雪の小面」を入手することになり、金剛流宗家25世・金剛巖氏が、昭和57年、その「雪の小面」で能「雪」を舞われました。新聞記事によると、一億円の能面「雪の小面」今に蘇る、と伝えたとのことです。

豊臣秀吉は、62才で亡くなりますが、その春、花見をした醍醐の三宝院に黄金の能楽堂を作りたかったとのことです。彼がどのような能をそこで舞いたかったのかは知る由もなく、今は夢のまた夢となりました。



先週の週報(2216号)の卓話原稿に一部誤りがありました。岡部泰鑑会員の役職は、「地区研修リーダー」ではなく、「RI研修リーダー」の間違いでした。謹んで訂正させていただきますと共に、お詫び申し上げます。 規定情報委員長 南賀勝之

### にこにこ箱

1月30日(第5例会)

・本日卓話者に日本能面美術協会会長 樋口玄正氏をお迎えして、卓話をしていただくことになりました。能面について、知識を深めて頂ければ幸いです。

三木会員

・村上(泰)さん、ホールインワンおめでとうございます。あやかりたいです。無事サンディエゴよりかえってきました。(任務一応まっとうしました。)

岡部(泰)会員

・岡部(泰)さん、おかえりなさい。

南賀会員

・岡部(泰)さん、永いおつとめ、お疲れ様でした。

原田会員

1月分にこにこ合計 ¥190,000円

今期累計にこにこ合計 ¥1,640,000円

(編集担当 大原・宇津井)

会員増強にご協力を!!